

第3学年 道徳学習指導案

日時：平成28年10月27日（木）第5校時  
 場所：3年1組教室（2階）  
 授業者：花井 眞  
 児童数：25名

3 本時のねらい

人が考えたものや作ったものを相手の承諾を得ずに勝手に真似をすると、自分も相手も嫌な気持ちになるということに気付くことができる。また、自分の過ちを認めることが、明るく生活を送れることにつながることに気づき、正直で素直に生活しようとする心情を育てる。

※ICT活用について

1 資料名：「クラスのマーク」

（出典：広島県教科用図書販売株式会社）  
 誠実・正直 A-（2）

2 指導の立場

（1）児童の実態

仲間のノートの記述や図画工作の絵の作品を見せ合いながら学習することがあるが、自分から相手に「見せて」や「見ていいよ」などの声をかけ合う姿は少ない。そのため、「見ないで」「見てないよ」と口論になることがある。仲間が一生懸命に取り組んだものを参考にするとき、仲間の許可を得ることや、勝手に真似をしてしまったときには、素直に過ちを認め、誠意をもって正そうとする心情を育てたい。

（2）本時の指導について

【年間指導計画の工夫】

著作権や個人情報などについて、日常生活の中で具体的に示しながら知識を獲得させる。人の引き出しやカバンの中を勝手に見ないなど、分かりやすい指導を朝活動の時間に行う。また、ネットモラル検定などのワークシートを活用して、児童のネットモラルの知識の定着を図る。

【指導方法・指導形態の工夫】

主人公の気持ちに共感した箇所が全体交流で共有できるように、児童が場面絵を指し示しながら発言するように指導する。

主人公の気持ちについて議論するために、ペアによる役割演技を取り入れる。さらに、ねらいとする価値をさらに深めるための発問に対し、児童は赤白帽子などで意見の相違を意思表示して、自分や仲間の考えを伝え合うことができるようにする。

【学習環境の工夫】

導入時に本時に関わる写真や動画を提示することで、著作権の意味を分かりやすく理解できるようにする。

	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時のねらいとする価値が分かる。	1 「宝物展」に出品した作品の制作で、楽しかったことや苦勞したことなどの感想を交流する。（ペア・全体交流） ・いびがわマラソンのポスター制作では、走る人の表情や動きを描くに苦勞した。 ・貯金箱作りでは、難しいところもあったけど、楽しかった。	※大型テレビで「宝物展」の様子が分かる動画を見た後で感想交流する。
ふかめる	○あらすじをつかみ、主人公の気持ちに共感する。	2 資料の範読を聞く。主人公の気持ち分かるところに赤線を引き、その理由について交流する。 ・できたあ、これでいいわ。 ・どうしよう、マークのこと言おうと思ったのに。	・教師の範読する箇所に定規をあてながら聞き、共感できるところに赤線を引くよう指導する。 ・児童が発言内容の様子を分かりやすく伝えるために、黒板の場面絵を指し示して話すよう助言する。 ・児童は、発言者と共感した箇所をハンドサインで示し、全体交流で考えていくことを共通理解させる。 ※大型テレビで葛藤の表情のイラストを写し、ワークシートに主人公が葛藤している気持ちを書かせる。 ・机間指導で◎で朱書きし、児童の考えを価値付ける。（5分間個人で考える。その後、考えたことをペアで役割演技させる。） ・先生役とさやか役のペアで役割演技をさせ、さよかの気持ちを考えさせる。（深めの発問） 謝罪した後に、「みかやみんなが別に真似していいから、このままでいいよ。と言われたら？あなたならどうするか？」 ・正直に言うか言わないかの立場をはっきりさせるために赤白帽子を活用する。 ・「これまでの自分を振り返り、悪気がないのに、ついごまかしたことや自分の失敗を正直に話してよかったことはないか。」ワークシートに記述させ、全体交流する。
	○思わず嘘を言ってしまった自分と本当のことを言わなければいけないと思う主人公の葛藤に気付くことができる。	3 主人公の気持ちについて考える。 ○「う・・・うん。きのう考えたの。」と答えたさやかは、どんな気持ちだろうか。（さやか役と友だち役で役割演技した後で、さよかの気持ちを話す。）	
まとめる	○誠意をもって行動しようとするさよかの行動に共感し、望ましい行動を考える。	◎「わたし、みかにも、みんなにもあやまらなくちゃ。」の続きの言葉を考えよう。 ・嘘についてごめんなさい。本当のことを言おうと思ったけど、なかなか言えなかった。 ・みかの勝手に真似してごめんね。これからはちゃんと真似していいか聞いてから真似するね。	・一度壊してしまった絵の作品が、今でも大切にされている作品を見せながら話す。
	○仲間の発言から、自分なりの望ましい行動をしていきたいという思いをもつことができる。	4 自己を見つめる。 ・図工の時間で人の作品を勝手に真似してしまった。仲間に「勝手に真似しないで」と言われて、思わず「真似していない」と嘘をついてしまった。とても嫌な思いをした。そのままにすると自分も嫌だし、仲間も嫌な思いをなるし、だますことになるから、今度は、嘘をつかず正直に話したり、仲間に「見せて」と言ったりしたい。	
まとめる	○過ちをそのままにせず、誠実に気持ちを伝えたいと思う。	5 教師の説話を聞く。 ・過ちをそのままにせず、誠実に相手に気持ちを伝えることで、これまでに以上に信頼関係が深まったことを話す。	